



# 伊倉っ子 だより

**【学校教育目標】**  
**豊かな心と確かな学力を身に付け、  
 心身ともにたくましく生きる  
 児童の育成**

伊倉小学校だより  
 第16号  
 令和8年1月30日  
 文責：校長 須藤 隆

## 小さな積み重ねが育む力！～凡事徹底で年度末を迎える～

寒さの厳しい日が続き、朝の気温が氷点下を下回る日も珍しくありません。そんな朝の運動場では、子供たちがサッカーやドッジボールに夢中になる姿が見られ、冷たい空気をものとせず元気に体を動かしています。

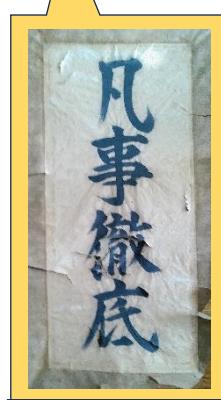
さて、あっという間に1月が終わり、来週からは2月になります。先日はクラブ見学を行い、3年生が来年度から参加するクラブ活動について実際に活動を見たり説明を聞いたりしました。来月は新入生一日体験入学が予定していて、来年度最上級生の5年生がお世話をします。また、6年生は中学校の学校説明会に参加します。新しい学年に向けた準備が着々と進んでいますが、年度末のこの時期は期待と不安で気持ちが落ち着かなくなり、思わぬ事故やけがをすることがあります。



「凡事徹底」という言葉をご存知の保護者の方も多いのではないでしょうか。伊倉小学校の校長室の壁面には、歴代の校長先生の写真の下にこの文字が書かれた掛け軸が飾ってあります。紙は茶色に変色し破れているところもあるので、かなり以前のものであることがうかがえます。

「凡事徹底」とは、その言葉の通り「日常の些細な平凡なことでも、手を抜かず徹底的に行うこと」です。つまり、「当たり前のことを当たり前にすること」。「ルールを守ること」「トイレのスリッパを並べること」「赤白帽子を被ること」「名札をつけること」「廊下を歩くこと」「翌日の準備をすること」等々。私が4月から話している“3つの約束①あいさつ②話を聞く③命を大事に”も当たり前のことです。学校生活にはたくさん小さな当たり前があります。その小さな当たり前を積み重ねていくことが、落ち着いた生活に繋がり、次の学年へのステップとなります。

私たち教職員も凡事徹底で、残りの日々を充実させていきたいと思います。保護者の皆様には、引き続き温かいご協力とご支援をよろしくお願ひします。



「凡事徹底」と書かれた掛け軸

## 校長室から～家読のすゝめ～

以前の学校だよりも読書についてはお話ししましたが、近年、スマートフォンやタブレットに触れる時間が増え、読書時間が減少しているという調査結果があります。スマホを見る時間を少しだけ読書に置き換えることで、子供たちの集中力や想像力は大きく育ちます。文部科学省の全国学力・学習状況調査によると、平日に読書をする時間が長い児童ほど、国語だけでなく算数や理科においても正答率が高い傾向が見られると示されています。



読み聞かせボランティアの方による読み聞かせの様子

「家読（うちどく）運動」という言葉をご存知でしょうか？その言葉の通り「家庭で読書活動をすること」で、日常生活の中に読書の時間を取り入れることです。子供たちに読書習慣を身に付けさせるには、学校だけでなく、生活の基本である家庭での読書環境づくりが大事であるという考え方で、2006年に始まりました。今では、全国約500の地方自治体で取り組まれているそうです。家読は、寝る前の10分間や夕食後のひとときなど、家族みんなで同じ本を読んで、その本について感想などを交流します。そのことで、読解力や想像力を育むだけでなく家族のコミュニケーションの促進にも役に立つとされています。

子供は、身近な大人の姿から多くを学びます。保護者の方が本を読む姿を目にして、「読書は特別なことではなく、生活の一部なのだ」と自然に感じるようになります。親が読書を楽しむ姿は、何よりの教育となります。

ぜひ家読を通して、親子が同じ空間で本に向き合う時間を大切にし、子供たちの豊かな学びにつなげていきましょう。

